支援ロボットで初手術

戸田中央総合病院　腎臓がん摘出、県内1号

戸田市本町の戸田中央総合病院（中村毅理事長）で、手術支援ロボットを使った腹腔鏡による腎臓がんの部分摘出手術が実施された。同病院によると、同方式の腎臓がん摘出手術は同病院が県内第1号という。主流の開腹して腎臓の片方を全摘出する手術に比べ、患者の負担が少なく、回復も早いという。4月から健康保険が適用され、経済負担も大幅に軽くなる。

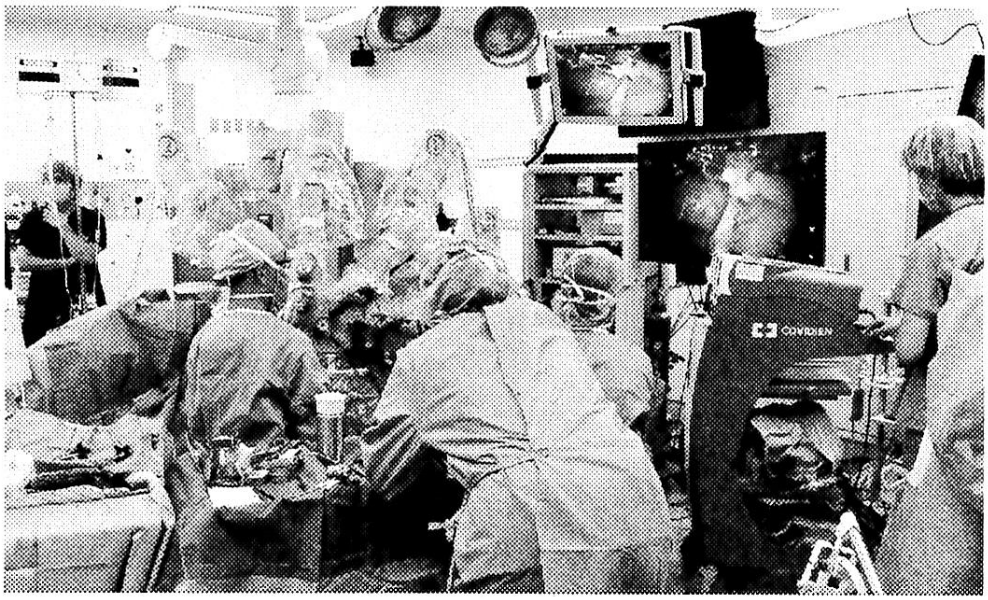
執刀したのは、東京女子医大泌尿器科准教授の近藤恒徳医師(50)と戸田中央総合病院泌尿器科部長の飯田祥一医師(47)。2人とも東京女子医大病院と同病院の名誉院長である東間紘医師(75)の教え子。東間医師も見守った。

患者は33歳の男性。「開腹ならば、脇腹を25センチぐらいは切る。腹腔鏡手術なので、中指ほどの穴を6カ所開けるだけです」と飯田医師。

ロボットの運転席に座った飯田医師と近藤医師が、両手の指を動かして操作する。アームが患者の腹部に伸び、画面に体内が映し出された。近藤医師は「開腹し自分の手でやるのと同じように、繊細な動きができる」と言う。

手術は約4時間で終了。近藤医師は「患者さんは4、5日で退院し、2週間ぐらいで仕事に復帰できるでしょう」と話した。

（岸鉄夫）



ロボットのアームの下に患者が横たわり、周辺の医師らが右手の画面を見守る＝戸田中央総合病院の手術室

埼玉新聞
2016年（平成28年）5月24日　火曜日